

# 指定管理者更新に係る検証シート

## 1 施設及び指定管理者の概要

施設名	萬翠荘	施設所管課	観光スポーツ文化局文化振興課
設置年月日	大正11年	耐用年数	50年
現指定管理者の名称	株式会社ウイン	現指定期間	平成31年4月～令和6年3月(5年間)
これまでの指定の状況	第1期:平成21年4月～平成26年3月(5年間)、第2期:平成26年4月～平成31年3月(5年間)		

## 2 検証のための指標の推移

### (1) 利用者数

	平成17年度 (制度導入前年度)	平成30年度 (現指定期間前年度)	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年間利用者数	35,624 人	142,725 人	130,315 人	26,573 人	31,323 人	68,632 人 (38,625 人)
対制度導入前年度比			365.8 %	74.6 %	87.9 %	192.7 %
対現指定期間前年度比			91.3 %	18.6 %	21.9 %	48.1 %

(※)令和4年度については、上段に年間見込数を、下段( )内には令和4年10月末までの実績数を記載。

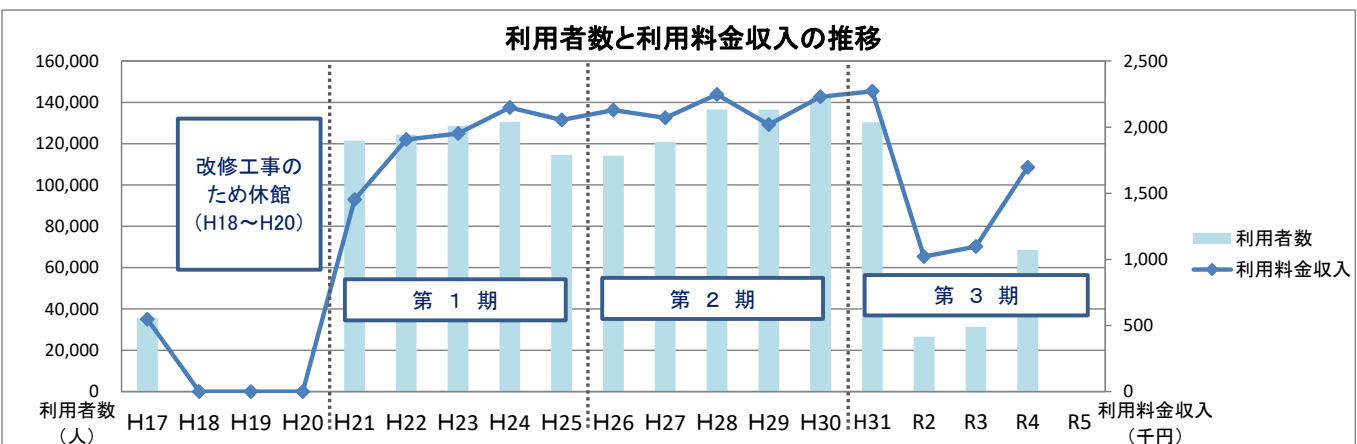
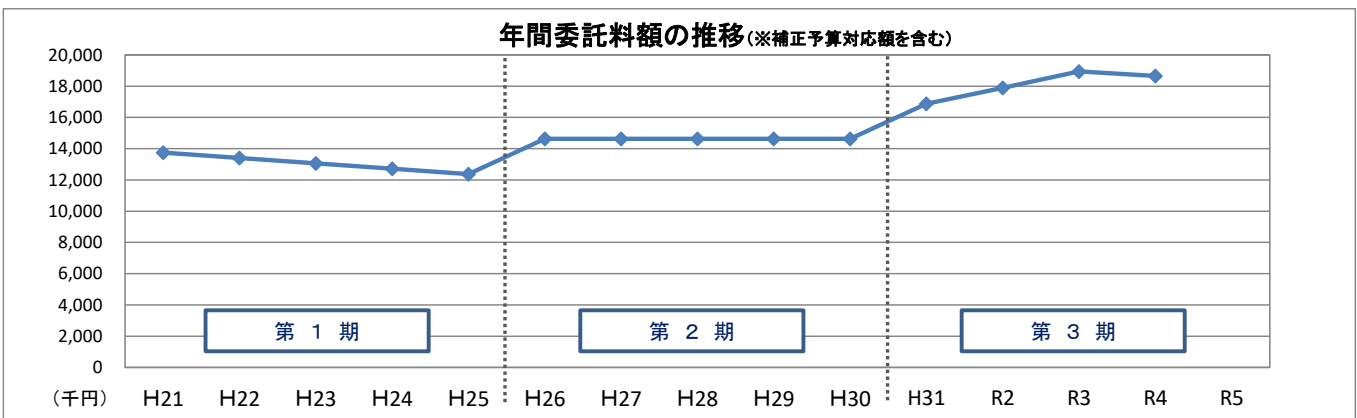
(※)18～20年度にかけて改修工事により休館(通算約12ヶ月)していたことから、制度導入前年度は17年度実績を記載。

### (2) 収支状況

	平成30年度 (現指定期間前年度)	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度※1
収(入)	31,120 千円	33,519 千円	25,752 千円	27,379 千円	32,070 千円
委託料	14,624 千円	16,827 千円	16,811 千円	16,696 千円	16,694 千円
委託料(補正予算対応額)※2	— 千円	48 千円	1,075 千円	2,248 千円	0 千円
利用料金収入	2,230 千円	2,271 千円	1,020 千円	1,097 千円	1,695 千円
その他の収入	14,266 千円	14,373 千円	6,846 千円	7,338 千円	13,681 千円
支(出)	30,274 千円	35,079 千円	27,140 千円	27,379 千円	32,070 千円
収(A) - 支(B)	846 千円	▲1,560 千円	▲1,388 千円	0 千円	0 千円

(※1)令和4年度については見込み額を記載。

(※2)新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、補正予算で増額した委託料を記載



### (3) 経費削減のための主な取組み（平成31年度～令和4年度）

新型コロナウイルス感染拡大の影響による施設の休館等に伴う来館者数及び収入の減少に対処するため、必要経費が最小限となるよう努め、また、職員の勤務体制の組み替えにより人件費を削減した。

### (4) サービス向上のための主な取組み（平成31年度～令和4年度）

#### 【継続実施】

- 自主企画事業（パネル展示・DVD放映）の継続
- 愛媛CATV、SNS（Instagram）によるイベント告知の継続
- 観光案内所、各種交通機関、ホテル、旅行会社へのパンフレット配付による観光客誘致の継続

#### 【新たな取組み】

- 令和4年の萬翠荘竣工100周年を記念したイベントの実施
- 久松定謨伯爵及び周辺人物の調査の掘り下げと発信
- 夜間イベントの開催（屋外プレミアムコンサート・ディナーパーティー）
- 多言語音声ガイドシステムの導入

### (5) コロナ禍における感染対策や利用者確保のための主な取組み

#### ○非接触体温計の設置

前述のとおり、観光案内所、各種交通機関、ホテル、旅行会社へのパンフレット配付による観光客誘致を継続しているものの、観光客の減少は止められず、来館者数の増加にはつながっていない。

## 3 次期更新に向けての評価等

### (1) 現指定期間における指定管理者制度の導入効果の検証

利用拡大の観点から（利用者数、利用料金収入）	県内外や国外からの観光客の多い施設であるため、新型コロナウイルス感染症による外出自粛・渡航禁止の影響は大きく、令和2～3年度は来館者数及び収入共に大幅な減少となった。現在は、ウイズコロナへの移行により徐々に観光客が増え、また、100周年記念イベント実施に伴う来館者もあり、回復基調にあるが、以前の水準までは戻っていない状況である。 そのような厳しい状況の中、県内客向けの自主企画イベントに力を入れて収入の確保に尽力し、予約の確保に繋がったことは評価できる。
効率化の観点から（経費削減）	新型コロナウイルス感染症の影響により休館するなど、来館者が減少した時期には、人員体制を組み替え、必要最低限の配置とするなど、人件費の大幅減により対応した。
利便性・県民サービス向上の観点から	施設の音声ガイドについて、従前は日本語対応のみの設置型ガイドシステムであったが、アフターコロナにおけるインバウンド需要に対応するため、QRコードをスマホで読み込むことで利用できる6言語対応の音声ガイドシステムを導入し、併せてwi-fi環境の整備を行った。 これにより、装置周辺への人の集中を避けることができるようになり、また、テキスト表示も可能であるため、外国人観光客だけでなく、聴覚障がい者の利便性向上にも繋がった。
その他の観点から（前指定期間と比較して特筆すべき成果、利用者等の安全性の確保、収入確保に向けた取組みの状況（広告事業等）、その他協定の履行状況など）	夜間イベントの開催（屋外プレミアムコンサート・ディナーパーティー・ホテル鑑賞会）により、市民の誘客を図った。 また、令和4年11月の竣工100周年を記念したイベントでは、記念講演会やJR四国と連携したプレミアムツアー、有名建築家を案内役としたバックヤードツアーなどを開催し、好評であった。

### (2) 次期更新に向けての方針及びその説明

現在の指定管理者による管理運営については、自主企画の運営や接客態度、施設的环境整備等において満足度が高く、また、職員体制の組み替えによる人件費の削減などの経費節減も図られており、制度導入に一定効果があったものと判断できる。

今後は、ウイズコロナへの移行により旅行需要が回復し、観光客が更に増えることが考えられるため、観光客誘致を継続し、重要文化財としての施設の適切な管理運営と行っていくと共に、集客に繋がるイベントの実施等を通じて文化的価値の周知に努める。